

北朝鮮がICBMを発射

金正恩を止める 残された方法とは？

北朝鮮が28日夜に、大陸間弾道ミサイル(ICBM)を発射。来年中にはアメリカ本土に届く核弾頭を搭載したICBMを実戦配備できると見られています。稲田朋美・防衛相辞任で揺れる日本はいま、何をすべきでしょうか。



北朝鮮は来年中に核弾頭を搭載したICBMを実戦配備できる模様。アメリカに届くようになれば、アメリカは日本を守りきれなくなる(写真は、7月4日の打ち上げ時のビデオ画像)。提供:KRT/AP/アフロ

北朝鮮が28日夜、「大陸間弾道ミサイル(ICBM)」を発射。ミサイルは約45分飛行し、北海道沖約160キロの排他的経済水域(EEZ)に落下しました。

ICBMの発射実験は今回で2回目。その射程高度は前回を上回り、ミサイル技術は急速に進化しています。試射に立ち会った金正恩・朝鮮労働党委員長は、「アメリカ本土全域がわれわれの射程圏内にあることがはっ

きりと立証された」と強調。深夜の発射は異例で、奇襲能力も誇示しました。

来年、米国は動けない

このICBMに核弾頭が積まれ、実戦配備される時期については、今まで「2020年までに」と分析されていました。しかし、アメリカ政府の最新の分析では「早くて来年」と大幅に短くなっています。アメリカ本土に届く核ミ

サイルが実戦配備された瞬間、日本は一気に窮地に立たされます。有事の際、アメリカが日本を守ろうとしても、自国民を危険にさらすことになり、動けなくなってしま

2009年より北朝鮮のミサイルへの対策を訴えてきた、幸福実現党の積量子党首は、日本が取るべき防衛策について、こう語ります。

「日本は、アメリカとの『核シェアリング』や場合によっては核開発を進められるよう、『非核三原則』撤廃を早急に検討すべきです。現在進んでいる政府の予算編成でも防衛費の割合を高め、原子力潜水艦、核を無力化する技術の開発を始める時です。さらに憲法9条に関して

アメリカは、東アジアの平和、国際秩序を守るためにも、いち早く軍事行動に出て、金正恩氏にミサイル開発をやめさせる必要があります。

「報復させない」攻撃を

ただ、シリアに撃ち込んだ「トマホーク」のような小規模攻撃では、韓国や日本が報復され、犠牲者が出る可能性が高いです。そのため、反撃の時間を与えない、「短期」で「大規模」な攻撃を行う必要があります。

例えば、北朝鮮の主要な軍事施設などに、通常兵器で最大の破壊力を持つと言われる「大規模爆風爆弾(MOAB)」を一斉に落とす、という手段も考えるべきです。

「原爆の悲劇」防ぐため

一方、日本も自分の国を自分で守れる「普通の国」に生まれ変わる時です。

今年に入り同党は、内閣府や全国約300の地方公共団体の首長・議会に、国民保護に万全の措置を取るよう求める陳情や要望書を提出するなどの働きかけを強めています。

8月に「原爆の日」を迎えます。当時日本が1発でも核兵器を保有していたら、広島・長崎に原爆を落とされることはなかったと言われています。あの悲劇を二度と繰り返さないためにも、北朝鮮を止める「最後のチャンス」を逃してはなりません。



The Liberty Web
True insight into world affairs

日々のニュースへの新たな見方を提供する記事を配信中。

ザ・リバティ

検索



8月2日(水) 大川隆法 IN 東京ドーム

幸福の科学グループ創始者兼総裁 大川隆法特別大講演会

今が、その時。

「人類の選択」 開演 18:30 終演予定 20:30 本会場 東京ドーム

全世界3,500カ所同時中継

- 本会場は完全予約制です。
- 日本国内は全都道府県に中継会場があります。

ご予約や最寄りの中継会場のお問い合わせは、幸福の科学サービスセンター(03-5793-1727)まで。受付時間は火～金:10～20時、土日祝:10～18時。

大川隆法 東京ドーム

検索

幸福の科学の書籍

戦後保守
言論界の
リーダー

清水
幾太郎の
新霊言

大川隆法



日本よ、滅亡か？
核武装か？

核開発を進める北朝鮮、覇権拡大を目論む中国、そして弱体化する安倍政権とトランプ政権——
保守の権威が斬り込む、日本存続の条件とは。

緊急発刊

日本よ、滅亡か？ 核武装か？
肚を決めよ。

核開発を進める北朝鮮、覇権拡大を目論む中国、そして弱体化する安倍政権とトランプ政権……。保守の権威が斬り込む、日本存続の条件とは。

保守側の人たちから、左翼側の人たちまで必読！この国の平和を守るための政治・外交・軍事テキスト。

戦後保守言論界のリーダー
清水幾太郎の新霊言
著者:大川隆法 1,512円(税込) 発行／幸福の科学出版

大川隆法
中国民主化運動の旗手

劉曉波
の
霊言

自由への革命、
その火は消えず

中国の実態



人権の抑圧、
情報統制そして粛清——
メディアでは
報道されない
自由なき独裁国家
中国の実態

死後81日
復活！
過去世への
熱きメッセージ

人権の抑圧、情報統制、そして粛清——
メディアでは報道されない
自由なき独裁国家・中国の実態。

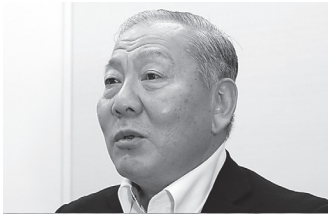
その死から8日目の復活メッセージ。
中国人初のノーベル平和賞受賞者が明かす、
習近平の野望と中国共産党の本質。
そして後世に託す、民主化への熱き願い。

「私がめざしたのは、
人間の尊厳と自由を中国にひろめること——。」

中国民主化運動の旗手 劉曉波の霊言
自由への革命、その火は消えず
著者:大川隆法 1,512円(税込) 発行／幸福の科学出版

月刊「ザ・リバティ」最新刊！

全国書店にて発売中



守りたいけど

国民を守れない

自衛隊トリビア20

インタビュー 元陸自西部方面総監 用田和仁 氏 ／ 元アメリカ陸軍大尉 飯柴智亮 氏

未来への羅針盤 ワールド・ティーチャー・メッセージ 幸福の科学グループ 創始者 兼 総裁 大川隆法

先の大戦をフェアに評価する

スマホに「支配されない」時間術 —自分を取り戻す読書ライフ—



September 2017 No.271 9月号
2017/7/29 発行 定価540円

No.15 迎撃ミサイル「PAC3」は、ミサイルを撃ち落とせない

No.3 自衛隊の無線機は、つながらない

No.9 隊員の睡眠時間は、2時間しかない

No.16 自衛隊は中国と、3日しか戦えない!?

 TheLibertyWeb True insight into world affairs

本誌ウェブ版では最新ニュースを毎日配信中（一部有料）。
本誌バックナンバーもご覧になれます。

the-liberty.com

ザ・リバティ

検索

